

アドビシステムズがインテリジェント ドキュメントを 核としたワークフローをさらに推進する Adobe Acrobat 7.0 日本語版ファミリー製品を発表

**Adobe PDF ファイルの管理と業務の効率化を促進する多数の新機能を搭載
Adobe Reader で企業や組織のファイアウォールを超えた
文書ベースのコラボレーションを可能に**

【2004年12月1日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹）は本日、電子文書の作成・管理ツール、Adobe® Acrobat® の最新版「Adobe Acrobat 7.0 Professional 日本語版」、「Adobe Acrobat 7.0 Standard 日本語版」および「Adobe Acrobat Elements® 日本語版」を発表しました。Adobe Acrobat 7.0 Professional 日本語版と Adobe Acrobat 7.0 Standard 日本語版は Windows® 版、Macintosh® 版ともにアドビストア（<http://store.adobe.co.jp/>）および全国のアドビ製品取扱い会社を通じて 2005 年 1 月 21 日（金）に販売を開始します。これに先立ちアドビストアでは、本日より予約を開始します。Adobe Acrobat Elements 日本語版の新バージョンは 2005 年 5 月以降の提供予定です。アドビは 12 月 6 日から Adobe Acrobat Elements のライセンス販売の最低ロットを 100 に改定するため、新バージョンの販売開始までは現行バージョンを 100 ライセンスより販売します。

Adobe Acrobat 7.0 Professional 日本語版は、ビジネス、エンジニアおよびクリエイティブのプロフェッショナル向け、Adobe Acrobat 7.0 Standard 日本語版は一般ビジネスユーザー向け、Adobe Acrobat Elements 日本語版は企業、組織向けのライセンス販売で Adobe PDF（Portable Document Format）作成機能に特化した製品です。さらに、無償で提供している Adobe Reader™ も最新版の 7.0 の提供を開始します。なお、現在 Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版を統合している Adobe Creative Suite Premium 日本語版についても、Acrobat 7.0 Professional 日本語版を統合した最新版が 2005 年 1 月 21 日（金）より提供されます。アドビストアでは、Acrobat 7.0 Professional を搭載した Adobe Creative Suite Premium アップグレード版、およびアップグレードキットの予約を本日から開始します。

今回のアップグレードでは、起動時間や Adobe PDF ファイルへの変換速度が大幅に高速化されたほか、PDF ファイルの管理やセキュリティの向上に向けた多様な新機能が搭載されました。これらの新機能により PDF を業務の基本ファイル形式として利用すれば、デスクトップ管理が効率化されるばかりでなく、ファイアウォール内外を通じて安全なワークフローを構築することが可能となります。

アドビは、エンタープライズアプリケーションの価値を高め、業務プロセスをファイアウォールの外へと拡大するための安全で柔軟性の高いプラットフォームとして Adobe Intelligent Document® Platform を提供しています。Adobe Acrobat はこのプラットフォーム上のデスクトップソフトウェアです。

NTT コミュニケーションズ株式会社 プラットフォームサービス部サービス開発部門 部長 五十嵐 雅裕氏は、「NTT コミュニケーションズでは、ISMS 準拠ならびに社内セキュリティ指針を設け、セキュリティ対策に万全を期しているところですが、来年4月の個人情報保護法の施行への対応も視野に入れながら、セキュリティが必要な文書は Adobe Acrobat で作成した Adobe PDF を利用しております。また、弊社では展示会や見本市等での顧客情報をリアルタイムで管理、活用できる XRM ソリューションシステムを提供していますが、重要な顧客情報を扱うこのシステムでも Acrobat 7.0 のセキュリティ機能を取り入れることにより、さらに多くの方が安心して利用いただけるシステムになると期待しています」と述べています。

住友商事株式会社 IT 企画推進部 企画統括チームリーダー 伊藤 友久氏は、「当社では、文書の電子化による社内業務の効率化とレスペーパー化を目指した『e-office プロジェクト』を推進しています。既存の様々な申請書類や回覧書類を単一のファイルフォーマットで一元管理、モバイル環境でのワークフローの構築、電子署名への対応、既存の紙文書から電子文書の違和感のない移行など、Adobe Acrobat と Adobe PDF は当社が想定する e-office の要件を満たすものであり、このプロジェクトを実現するためにはなくてはならないものでした。Acrobat 7.0 では、Adobe LiveCycle™サーバ製品との連携により、ドキュメント単位で多様なセキュリティ権限を付与できるようになったことから、今まで以上に戦略的かつセキュアに文書を活用し、ビジネスに活かすことが可能になると期待しています」と述べています。

筑波大学人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 助教授 宮本 俊和氏は、「Acrobat はアクセシビリティ*に対応した優れた製品です。このアプリケーションを導入することにより、視覚に障害をもった人でも利用できる電子文書を作成することが可能となりました。現状は障害をもった人向け文書と健常者向け文書という複数の文書を作成し配布する必要がありますが、今後は Acrobat 及び Adobe PDF の使用範囲がさらに広がることにより1つの電子文書で統一することができるようになることを期待しています」と述べています。

*アクセシビリティ：情報やサービス、ソフトウェアなどが、年齢や身体的制約、利用環境等に関係なく、すべての人から問題なくアクセス、利用できること

西宮市役所 総務局理事 河野 昌弘氏は、「西宮市役所では、決裁文書の処理や管理などの文書業務を効率化することを目的とした統合文書管理システムにおいて Adobe PDF の活用を予定しており、このために職員のノート PC に Acrobat を導入しました。このソフトは、様々なアプリケーションファイルをひとつの PDF ファイルとして束ねることができるため、決裁途上における閲覧の能率化が期待できます。また、公文書の電子化や保管・保存に活用することも考えていますが、現在はこの機能を十分生かしきれていないのが実情です。今後 Acrobat の有効活用により、統合文書管理システムの効率化を一層推進できるものと考えています」と述べています。

各製品の概要

アドビが開発し、仕様を公開している電子文書のファイル形式である Adobe PDF は、インターネットや自社の通信ネットワークを介したコミュニケーションにおいて交換される、電子文書の標準フォーマットのひとつとして認められています。アドビでは最先端のユースケースに対応する PDF 作成、編集、管理ツールとして、Adobe Acrobat の最新バージョンを開発しました。今回の Adobe Acrobat 7.0 ファミリー製品では、プログラムそのものを徹底的に見直すことによって、アプリケーションの起動が高速化され、さらに PDF への変換速度は前バージョンと比較し、最大 80% まで高速化しています。

Adobe Acrobat 7.0 Professional 日本語版

Acrobat 7.0 Professional 日本語版は、Acrobat 7.0 Standard 日本語版のすべての機能を備えた上に、フォームの作成やファイルのレビュープロセスの設定をはじめとするビジネスプロフェッショナル向けの機能を強化しています。さらに、エンジニアリングとクリエイティブのプロフェッショナルのワークフローを考慮した新機能と機能強化が施されています。

Acrobat 7.0 Professional は、Adobe PDF ファイルに権限を付与することができます。Adobe Reader 7.0 でそのファイルを開くことで、注釈を書き入れたり、電子印鑑による承認を付与したり、さらに起案者にレビューしたファイルを返信し、手元に保存しておくことも可能となるため、文書レビューの対象を Acrobat ユーザだけでなく、Adobe Reader 7.0 ユーザにも拡大できるようになりました。これにより、Adobe Reader 7.0 ユーザでもレビュープロセスに参加できるため、レビュー担当者のコンピューティング環境に依存せず効率的な承認プロセスを構築できます。

インテリジェントな電子フォームをより簡単に作成できるよう、現在別製品として提供しているフォーム作成ツールの最新版 Adobe LiveCycle Designer 7.0 を同梱しました。(Windows Professional 版のみ) 同ソフトウェアによって計算式やデータ検証などのビジネスロジックを埋め込んだ高品質な Adobe PDF および XML のフォームをインタラクティブかつ簡単に作成できるようになりました。また、特定の XML スキーマを取り込んで、PDF フォームを簡単に基幹システムに統合することが可能です。収集した XML 形式のフォームデータをスプレッドシートに書き出すこともできるため、効率的なデータ分析が可能になります。

エンジニアリングプロフェッショナル向けには、Autodesk® AutoCAD®、Microsoft® Project および Visio® といった専門性の高いアプリケーションとの連携がさらに強化されました。AutoCAD で設定した複数のレイアウト空間をまとめてひとつの Adobe PDF ファイルに変換、あるいは Visio ファイルのカスタムプロパティを PDF 上でも保持し、検索できるようになりました。これにより、これらのアプリケーションを持たないスタッフとの適切な情報共有および情報交換が可能となります。また、Project で作成した長期にわたるガントチャートを見やすい 1 ページの PDF ファイルに表示させることも可能です。

クリエイティブプロフェッショナル向けには、グラフィックコンテンツ変換における ISO の標準規格である PDF/X に準拠した Adobe PDF 文書を安全かつ確実に作成できます。また、印刷、出版分野における新しいジョブチケット規格である JDF ジョブ定義の作成、編集、書き出しに対応しました。クリエイティブプロフェッショナル向けの新機能や拡張機能については本日同時発行のプレスリリース「Adobe Acrobat 7.0 Professional により Adobe Creative Suite がさらに強力に」を併せてご参照ください。

Adobe Acrobat 7.0 Standard 日本語版

Acrobat 7.0 Standard 日本語版は、とくに Microsoft Office を多用するような一般ビジネスユーザのために、Adobe PDF ファイルの作成をより柔軟にしたほか、PDF ファイルの管理機能を大幅に強化しています。

Microsoft Office ソフトウェア製品との連携がさらに強化され、新たに Microsoft Access、Publisher および Outlook® (電子メール) からワンボタンで Adobe PDF 変換ができるようになりました (Windows 版のみ)。Outlook においては、個別の電子メールはもちろん、

選択した複数のメールあるいはメールフォルダごと PDF に変換できます。添付ファイルやリンクも PDF 内に保持され、送信者、日付、タイトル順の“しおり”も付加されます。また、一旦作成した PDF ファイルに、新たな電子メールを追加していくことも可能です。関連する一連のメールを PDF 化することによって、検索がより柔軟に行えるようになるほか、個人的な情報ソースであった電子メールをチーム内で共有することが可能になります。

また、紙で保管されている書類をスキャナを使って Adobe PDF 化する際の OCR（光学式文字認識）エンジンとして、既に評価の高いイー・アイ・ソフト株式会社製の「読ん de!! ココ」を採用しました。（Windows 版のみ）Macintosh 版の OCR エンジンについても、さらに精度向上を目指して開発を進めています。

Adobe PDF ファイルの管理を効率化するため、ローカルのハードディスクおよびネットワーク上のサーバにある PDF ファイルを視覚的に一元管理できるツール「PDF キャビネット」が新たに搭載されました。PDF キャビネットは PDF を閲覧履歴順、保存場所別に表示可能なほか、よく使用する PDF ファイルを任意のフォルダにまとめることで特定ファイルの検索とアクセスを非常に簡単にします。PDF キャビネットでは PDF ファイルを開くことなく、ページ内容の確認、複数 PDF ファイルの束ね、メール添付と送信、文書レビューおよび承認ワークフローの開始が可能です。

このほか、社内稟議等に有効なスタンプツール、さらに柔軟になったヘッダ、フッタ、透かし設定、ドラッグ & ドロップでのファイル添付、エンジニア文書向けの新注釈ツール「引き出し線」「寸法線」の追加やものさしツールの機能拡張など数々の新機能、機能向上が施されています。

さらに、2005 年前半に発表予定のサーバ製品「Adobe LiveCycle Policy Server」と連携させることによって、個々の Adobe PDF ファイルにセキュリティポリシーを付与することができるようになります。閲覧、印刷、コピー等を制限するユーザ権限を、情報の機密性に応じた組み合わせで設定できます。たとえば、あるレビュー担当者には有効期間 5 日間で読み取り専用アクセス権を、ある担当者には有効期間 10 日間で読み書きアクセス権を与え、どちらも有効期限を過ぎるとファイルへのアクセスを不能とする、といった期限付きの PDF ファイルを作成することができます。

Adobe Acrobat Elements 日本語版

Acrobat Elements は、Adobe PDF の生成に特化した製品で、Acrobat を大量導入する企業や組織を対象に提供しています。Windows ユーザは、Acrobat Elements を使用して、文書を簡単に PDF ファイルに変換し、ビジネスワークフローに組み入れることが可能です。Acrobat Elements は、ライセンス販売のみで、新バージョンは 2005 年 5 月以降の提供予定です。新バージョン販売開始までは現行バージョンを 12 月 6 日（月）から 100 ライセンスより販売します。

Adobe Reader 7.0 日本語版

Adobe Reader は、Adobe PDF ファイルを閲覧、印刷するための無償のソフトウェアです。最新版となる Adobe Reader 7.0 では、新たに 3D データ（U3D 形式）が埋め込まれた PDF ファイルの表示および 3D モデルの操作が可能となりました。また、Acrobat 7.0 Professional で権限を付与された PDF ファイルに対して注釈や電子印鑑を施せるようになったため、文書レビューや承認ワークフローに参加できるようになりました。Adobe

Reader 7.0 は、2004 年 12 月中旬にアドビの Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readermain.html>) を通じて無償ダウンロード提供を開始する予定です。

アドビストア提供価格 (送料別)

Adobe Acrobat 7.0 Professional 日本語版 (Windows 版 / Macintosh 版)

■ 通常版	57,540 円	(本体価格 54,800 円)
■ アップグレード版 ^{※1}	21,735 円	(本体価格 20,700 円)
■ アカデミック版	21,735 円	(本体価格 20,700 円)

Adobe Acrobat 7.0 Standard 日本語版 (Windows 版 / Macintosh 版)

■ 通常版	36,540 円	(本体価格 34,800 円)
■ アップグレード版 ^{※2}	13,125 円	(本体価格 12,500 円)
■ アカデミック版	13,125 円	(本体価格 12,500 円)

Adobe Acrobat Elements 日本語版 (Windows 版)

- ライセンス販売のみ (100 本以上)

Adobe Creative Suite Premium 日本語版 (Windows 版 / Macintosh 版)

■ 通常版	207,900 円	(本体価格 198,000 円)
■ アップグレード版 ^{※3}	134,400 円	(本体価格 128,000 円)
■ アカデミック版	73,290 円	(本体価格 69,800 円)
■ Adobe Creative Suite Premium 1.3 アップグレードキット ^{※4}	21,735 円	(本体価格 20,700 円)

※1 Acrobat 4.0、Acrobat 5.0、および Acrobat 6.0 Professional 版 / Standard 版から Acrobat 7.0 Professional 版へのアップグレードの場合

※2 Acrobat 4.0、Acrobat 5.0、Acrobat 6.0 Standard 版から Acrobat 7.0 Standard 版へのアップグレードの場合

※3 アップグレード版の対象は Adobe Photoshop® 1.0 ~ 7.0 ユーザ (Photoshop CS、Photoshop LE、Photoshop Elements、Photoshop Album®、Photoshop Elements plus Photoshop Album を除く) です。

※4 Adobe Creative Suite 1.3 アップグレードキットは、Adobe Creative Suite Premium ユーザを対象とした Acrobat 7.0 Professional 版へのアップグレードキットです。Adobe Photoshop からのアップグレード版と区別するために、1.3 という名称を使用しています。Adobe Creative Suite 1.3 アップグレードキットのインストールには、お使いのコンピュータに Adobe Creative Suite Premium 日本語版がインストールされている必要があります。

アドビ システムズは、2005 年 1 月 27、28 日の両日、東京にて、2 月中旬には大阪にて、一般のユーザの方々を対象とする Adobe Acrobat 7.0 日本語版ファミリー製品のユーザセミナーを開催します。詳細は以下の URL をご参照下さい。

<http://www.adobe.co.jp/acrobat7>

Adobe Acrobat 7.0 日本語版ファミリー製品の詳細情報については以下の URL をご参照ください。
<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/main.html>

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、人々と企業のコミュニケーションをより豊かにするために、業界をリードするデジタルイメージング、デザインならびにドキュメント技術のプラットフォームを、一般ユーザ、クリエイティブプロフェッショナルおよび法人ユーザ向けに提供しています。アドビ システムズ社の 2003 年度の売上は 12 億米ドル超でした。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。